

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年8月21日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

子ども、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！ほいく誌購読の輪を広げよう！仲間を増やそう！

近畿・北陸・東海の取り組みを紹介します！ part 2

大阪連協内に「かくほチーム」を結成、毎月の運営委員会、隔月の指導員交流会で活用！ 年3回の普及交流会を開催し、ニュース「ちよつとひらいてみい〜ひん？」を発行。目標を決め、課題を把握し、連絡協議会の意義とセットで普及！



大阪府連協の取り組み！

各地域が独自のニュースを発行しており、読んだ感想を紹介。おすすめのページに付箋を貼って配布し、積ん読ではなく、読んでもらうための工夫をしている。指導員学校や全国研などの案内を送る際にチラシや見本誌を同封しています。



京都府連協の取り組み！

年間を通して、運営委員会で部数を把握。県連協主催の行事（県研集会・指導員講座等）でほいく誌をアピール。隔月で「ほいく誌る〜む」を『Zoom』で開催、読み合わせをしながら、日々の保育について意見交換をしています。神戸市連協指導員会でも、ほいく誌を読み合わせ、モニター通信を執筆する時間を設けています。



奈良県連協の取り組み！

ほいく誌読み合わせ会「naracomisalon」を開催。加えて、他地域との交流をかねて、協力しながら毎月1回定期的にオンラインで『日本の学童ほいく誌を読む会』を実施。4月号、7月号、11月号の強化号は目標を定めて呼びかけています。



兵庫県連協の取り組み！

研修のなかでほいく誌を紹介！購読数1割アップを目標に、普及拡大をすすめています。

和歌山県連協の取り組み！



日本の学童ほいく 8月号

特集 子どものけんか・ことば・気持ち

学童保育の生活のなかで子どもたちは、一緒に笑ったり、遊んだり、ときにはいざこざがあったりと、さまざまな関わりを経験します。今回の特集では子どものけんかをテーマに、保護者や指導員の思い、願い、関わりの実際を交流することを通じて、子どもたちの成長を支えるうえで大切にしたいことを考えあいます。



日本の学童ほいく

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

普及拡大 ニュース

2024年8月21日

読者の声

滋賀県日野町●指導員から

先日、4年前に卒所した子どもが二人、学童保育に遊びに来てくれました。

今年から高校生になった二人、制服を見ると別々の高校です。二人で予定をあわせて遊びに来てくれたことがすごくうれしくて、心があたかくなりました♡

「久しぶりに遊ぶなあー！」と、カロムやメンコ、けん玉や一輪車など、ザ・学童保育の遊びを2時間半ほど楽しみ、「テスト期間の息抜きになったわー！ ありがとうー！」と元気に帰っていきました。

身長も伸び、敬語も使えるようになった二人を見てると、いま学童保育に通っている子どもたちの成長がとても楽しみにになりました。指導員の仕事って、いいなあと思えたひとときでした。

『日本の学童ほいく』2024年8月号「読者のひろば」より

山形県山形市●指導員から

2024年4月号の特集「四月☆新しい出会い 学童保育」に掲載された記事「成長の階段、一歩ずつ」を読みました。

私が勤務する学童クラブに入所してきた1年生たちも初日、すんなりおうちの人と離れてお友達と遊ぶ子、さびしくなって泣いてしまう子、同じ保育園出身の子が登所するまでおちつかず室内を歩いて待ちわびている子など、さまざまだったなと思い出しました。最初は緊張していた子どもたちも、上の学年の子どもたちがやさしく教えていたり、一緒に遊んだりしてくれるなかで、だんだん慣れて楽しく過ごせるようになっていく姿が見られ、子どもたちの力ってすごいなーと頼もしく感じました。

2年生以上の子どもたちも、クラス替えや学童クラブを卒所・退所した子がいるなど仲間関係が変わったり、習い事や係活動で忙しくなったりとさまざまな思いを抱えて、揺れ動いています。記事にあったように、「まずはありのままに受けとめ、共におしゃべりをしたり、夢中になって遊ぶ」ことをとおして、子どもたちの安心につなげていけるように努めたいと思います。

『日本の学童ほいく』2024年8月号「読者のひろば」より

私（徳島生まれ）の家族は、主人（愛知生まれ）、長女（静岡生まれ）、次女（愛媛生まれ）の4人で、出身地がバラバラです（笑）。長女は2024年3月に大学を卒業し、次女も県外の大学に進学しました。長女が小学1年生のとき、主人が体調をくずして入院しましたが、学童保育のおかげで子どもの日常が守られ、私も指導員の先生に話を聞いてもらえ、この時期を無事乗り越えることができました。

その後、社会福祉士の資格を取るために、試験の数か月前に仕事を辞めて受験勉強に専念しましたが、その間も学童保育に在籍させてもらえたおかげで子どもの日常が変わることなく、資格も取得でき、今の仕事につながりました。私は当時、保護者会長を3年間務め、連協の活動にも微力ながら参加しました。その際に『日本の学童ほいく』に出会いました。この冊子は子どもも楽しく読めるコーナーがあったり、指導員・保護者向けの内容も充実しています。

2024年6月、久しぶりに全国学童保育指導員学校・四国会場に参加したのをきっかけに、購読を再開しました。私が住む市は2013年以降連協の活動ができていません。そのときの連協の会長は私でした。子どもたちを取り巻く環境や学童保育の課題がなくなったわけではなく、後につなげられなかった悔しい思いもあり、活動再開をめざしています。

この冊子は活動を進めるうえで役に立ち、指導員や保護者、子どもたちの日常を感じることができるので、みんなに読んでほしいおすすめの本です。

私と「ほいく」誌

読者リレー執筆・愛媛県松山市から
保護者OBの黒木光子さん

